



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を  
一人一人が輝く子どもの姿を求めて



★1月の目標

- ★学習をがんばろう
- ★みんなと なかよくしよう
- ★笑顔で

★配布物のお知らせ

- 1 学校便り

★今後の行事計画

- 11月25日サンクスギビング休み
- 12月2日幼稚部入園募集開始
- 12月16日2学期終業日
- 1月 6日3学期始業日

★六年二組「やまなし」を読んで

松井 那菜

初めて「やまなし」を読んだときの第一印象は、作者が作った言葉が出てきて、最初はどのような意味なんだろうと思っていました。読んでみると、その言葉の意味が分かってきました。それから、物語に色の表現や物の表現がはっきりとあらわされていたのでとても分かりやすかったです。

やまなしの作品は、岩手県が夢のようなすてきな世界になってほしいと願う賢治の理想だと思いました。人間も動物も植物も互いに心を通わせる世界、それが賢治の岩手県を思う気持ちです。イーハトーブは、イーワテによく似ているので、賢治の優しさが表れていると思います。私が思ったことは、賢治の作品は、人間が人間らしく生きる社会と繋がっていると、人間が人間にぎっしりとはいつていると思えました。

※校長先生は、岩手県出身です。宮沢賢治は隣町です。小さいときから賢治の作品に触れ、教師になってからは、賢治の作品を教えてきました。農業、工業、詩人、教師、作家、音楽家、画家なんでもできる賢治は、素敵で心温かい人で、岩手県の偉人です。花巻市に賢治記念館があり、全国からたくさんの方が賢治を慕って訪問しています。ぜひ、一度訪ねてみてくださいね。



★六年二組「やまなし」を読んで

遠藤 由翔

「やまなし」を読んだ第一印象は、不思議な物語だということでした。たとえば、クランボンです。この言葉は意味が分かっていないため、不思議だなと思いました。さらに、僕は、作者の賢治が素晴らしい表現力を持っていると思います。なぜかといと、やまなしでは、川の中のカニを主人公にしています。さらに、色の表現もすごいと思います。この物語で一番すごいと思った場面は、天井では、青白い火を燃やしたり消したりしている」というところの表現が素晴らしいと思いました。波を青白い火にたとえることがすごいと思いました。ぼくは、この感想文書いて改めて宮沢賢治のすごさを感じました。

★五年二組「ヘレンケラー」を読んで

弓立 綾菜

私がこの本に手を伸ばしたのは、本の表紙の女の子がかわいいのと三重苦を乗り越えた奇跡の人という言葉が気になったからです。ヘレンケラーは、病気で高熱が二週間続き、この熱のために、脳の中にある見る、聞くことを感じる神経が全然働かなくなり、音も光もない真っ暗闇の世界に閉じ込められてしまいました。両親の温かい感情につつまれて育ちました。ヘレンは、サリバン先生という素晴らしい人に会って、目や耳が不自由でも最終的には、世界中の障がい者のために、活動するほどの人になりました。目や耳が不自由なのに様々な困難を乗り越えて大学を卒業し、体の不自由は人々を救うために世界中を回り講演し八十七才

★五年二組「ゴミ問題について」

奥山 京香

これからの社会をつくっていく私たちが必要として、ゴミのない町並みについて考える。

一、提案するきっかけ

わたしは、一度、郵便を取りに行ったら、違う人のゴミが玄関に散らかっていた。また、ある日、私はアメリカの新聞を見たら、ゴミがすぐ落ちていく写真がありました。見えていかなかった。

二、提案

家の前にゴミが落ちていたから。私は、ゴミが散らかっているのがいやだから。汚く感じるから。

三、提案の効果

わたしは、家の中のゴミを拾って気が良かった。みんなもゴミを拾って見てはどうですか。



☆六年一組  
イーハトーヴの夢を読んで

澤本 和奏

宮沢賢治が理想とした世界は、人間も動物もたがいな心を通じ合うことです。私もこの場面を読んで、少し共感できます。人間と動物、例えば人間は話せません。動物は鳴けるけど、植物は何も言えないから、何を思っているのか分からない。でも植物も人間や動物のように育ちます。なので人間や動物、植物は少しつながっているのかなと思います。私はよく小さいころ、森や公園に行きました。その時、木にのぼったりちよっとたいたりして、木にのぼったこと、木にのぼって葉をとったり、枝を折ってしまったこともありました。そして今、宮沢賢治の理想の世界の場を読むと、やっぱり木にも感情があつて、痛かったのかなと思つたからです。

もう一つの理由は、おばあちゃんです。私のおばあちゃん、お花が大好きです。一回日本にもどつた時、おばあちゃんとお花を育てました。おばあちゃんによく「それはダメ、花が痛がるよ。花も自分自身を一つひとつ持つている。」と言っていました。なので、私はなんだか宮沢賢治と少しだけ共感ができます。このイーハトーヴの夢を読むと、数々の作品を作ってきたと書いてあります。でももし病気がかからず続いたら、この物語に書いてある最後の場面「部屋の前には、生きているうちに本となることになった名作」は一体どんな物語だったのかわかる。そして何冊できたのかわかる。私が予想するのは、きっと世界のこと、イーハトーヴのパノラマ地図にまた足せる何かがあるのかなと思ひます。全部で十五冊よりも多いのかなと思ひました。

☆六年一組  
イーハトーヴの夢を読んで

内田 羽為斗

宮沢賢治が理想とした世界は、人々が助け合う世界だと思ひます。この作品は、主に人を助けたいというところが書かれています。

そう思う理由は、賢治が言った「なんとかして農作物の被害を無くしたい。」この言葉は、あきらかに人を助けたいと思つている言葉だと思ひます。賢治はい人だなどと思つたので、この人について僕は知りたと思ひました。

賢治に聞いてみたいことは、「賢治さん、あなたは何故人の為に、そこまでして尽くせるんですか。僕は人の為にそこまで尽くせませんし、尽くそうとも思ひません。なぜあなたはそこまでして他人に尽くすんですか。」きつと彼ならこう答えるでしょう。「そんな簡単なです。人が困つている時に助ける。ただそれだけです。」



☆六年一組  
イーハトーヴの夢を読んで

辻本 凜香

宮沢賢治が理想とした世界は「苦しい農作業の中に楽しさを見つめる。工夫することに喜びを見つめる。そうして、未来に希望を持つ。」と書いてあります。その理想について思うことは、宮沢賢治は自分の理想とした世界に、何も悲しいことのない平和な場所を想像したんだと思ひます。理由は、イーハトーヴの夢の中で宮沢賢治は「なんとかして、農作物の被害を少なくして、人々が安心して畑を耕せるようにできないか。」などと、人々のことを常に考えているからです。

宮沢賢治に聞いてみたいことは、どうして人々の安心を増やしたいか、です。宮沢賢治は、いつでも常に人々の安心した生活を願っていました。私には、今まで一度もない考えです。もしこれが宮沢賢治に聞けたとしたら、賢治は「人々が苦勞して作業をしていたら、手伝つてあげたいと思う。」と言ひかも知れないからです。



☆六年一組  
イーハトーヴの夢を読んで

近藤 和暉

宮沢賢治が理想とした世界は、人間がみんな人間らしい生き方ができ、人間、動物、植物もたがいに心を通じ合うような世界だ。みんながつながり、心を通じ合うなんて、すばらしいと思ひます。もしその世界があるとすれば、いつでも草に話しかけられるし、動物の気持ちも分かり、戦争も一切なくなると思ひます。きつと、人間以外の物も人間と共に住み、家がにぎやかになると思ひます。人間、動物、植物のすべてが心を通じ合わせれば、みんなの気持ちも分かるようになるし、くだらない戦争もなくなり、みんなが平等に、そして共に暮らせるようになるから。きつとぼくが「なんで自分のためには働かないんですか。自分のことが十分にあってから、他人を気づかうべきなのでは。」と聞けば、きつと宮沢先生は「理想の未来は、みんなの協力無しにはありえないから。」と答えるだろう。すばらしい想像力は、きつとすばらしい未来を想像させ、すばらしい行動「自分が農民になつてみる」などをさせるんだろうと思ひました。



